

# 展示ケースの修理

コラム



本学文学部考古資料展示室の展示ケースについて、2019年度に修理を行った。これは、エアタイトケースと呼ばれる、気密性の高いタイプの展示ケースである。同展示室は、2002年の文化科学系総合研究棟新館に伴い開設された。当該展示ケースも、その際に購入したものである。その後、2015年に当学芸員課程の博物館資料保存論という授業の一環において、展示室の空気環境を調べる機会を設けた。検知剤によりガス状物質を可視化した結果、2台あるエアタイトケースから有機酸が検出された(光本2016)。有機酸は、一定の湿度を超えると金属腐食等の影響を及ぼすとされる。同ケースには、岡山県内外から出土した弥生時代から古墳時代の貴重な青銅器を展示していた。このたび、学内の予算措置を受け、有機酸放出防止のための修理を行ったものである。

メーカーによると、納入当時はまだ資料への有機酸の有害性が認識されていなかったとのことであった。発生源としては、ケースの内装材である木材の存在が挙げられた。今回の修理では、その内装材を特殊な覆いで包み、有機酸をケース内に充満させないこととし、2020年2月に作業は無事に完了した。

博物館という組織が存在しないこともあり、この展示室については常時の公開ではなく予約制にて考古学担当教員が来館対応を図ってきた。そうした中、2018年度に当展示室にて特別公開「倉敷市真備町二万大塚古墳の世界」を開催し、学術成果を発信する本来の博物館的活動が実現した。さらに2020年3月には、本学埋蔵文化財調査研究センター展示会のタイアップとして、社会文化科学研究科附属文明動態学研究センターの支援のもと、1週間ほどの期間ではあるが展示室を公開する予定であった。修理した展示ケースには、2018年に岡山市津倉古墳で発見した銅鏡もひそかに初陳列していた。しかし、新型コロナウイルスの流行により、残念ながら展示の開催は中止となった。世界的に同ウイルスの影響が博物館・美術館にも影を落とす今日、見えない敵との闘いは続いている。(光本)

光本 順2016「大学所蔵資料の展示・収蔵環境に関する学芸員養成教育の実践的試み」『岡山大学文学部紀要』65、81-89頁  
\*「岡山大学学術リポジトリ」において公開。同リポジトリのPDFでは、有機酸とアンモニアの測定結果に関するカラー写真を掲載している。



内装材(裏面)  
左: 修理前 右: 修理後

2019年度人文系博物館実習では、18名の実習生が5日間以上の期間、館園実習に臨みました。実習先は岡山県内外の合計7箇所の博物館・美術館です。関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

**館園実習館内訳**  
岡山県立博物館 4名、岡山県立美術館 1名、岡山市立オリエント美術館 3名、岡山シティミュージアム 5名、吉備路文学館 1名、大原美術館 3名、香川県立ミュージアム 1名

# 14 March. 2020

## 学芸員課程 Newsletter

Newsletter from Course for Prospective Museum Workers, Faculty of Letters, Okayama University  
編集・発行: 岡山大学文学部学芸員課程 (編集 光本 順)  
発行日: 2020年3月31日  
文学部学芸員課程 Web Site  
<http://www.okayama-u.ac.jp/user/pmww>

contents

特集 第7回文学部学芸員課程企画展 光本 順 …… 1

博物館実習生による企画展報告 実習生 …… 2・3

コラム 展示ケースの修理 光本 順 …… 4

2019年12月5日(木)~12月17日(火)にかけて、第7回文学部学芸員課程企画展「とっておきたいわたしの〇〇」を開催しました。これは2019年度人文系博物館実習の一環で実施したものです。会場は岡山大学附属図書館・中央図書館2階サルトフロresta内のクスノキエリアです。

10月からの短い準備期間の中で、実習生は資料収集から展示の立案・実践まですべて分担して行います。今回は、「思い出」を収集するという行為のおもしろさに着目した展示を行うこととなりました。グループに分かれて班ごとの案を立案し、議論を重ねた結果、企画1「とっておきたい とっておきのチケット」、企画2「撮っておきたい岡山」を2台の展示ケースで実施することとなりました。

どうすれば図書館来場者の気を引くことができるのか、参加型のコーナーの設置や、アンケート用紙にも工夫を凝らしました。筆者は実習担当として議論と作業を眺めていましたが、どんなに小さくてもこだわりをもった展示が、きっと来場者の方にも届くものと確信させる場

面が多々ありました。2・3頁の展示内容の紹介は、実習生が作成・編集したものです。最後になりましたが、お世話になった図書館スタッフの皆様にも厚く御礼申し上げます。  
(文学部准教授 光本 順)



作成したチラシ



展示設営風景

# 特集 第七回 文学部学芸員課程企画展

学芸員課程 Newsletter 14

# 博物館実習生による企画展報告

とっておきたいわたしの○○

企画1 とっておきたい とっておきのチケット  
 企画2 撮っておきたい岡山

2019年12月5日～12月17日にかけて、岡山大学附属図書館2階サルトフロrestaにて、第7回文学部学芸員課程企画展「とっておきたいわたしの○○」を開催しました。博物館実習生による企画展の報告を行います。

## 展示設営の様子



企画1「とっておきたい とっておきのチケット」では展示ケースに赤茶色の神を敷きチケットを目立たせることを意識しました。また、鑑賞の要点を伝える文章は台を作りポップ状に仕立て、最初に目に留めていただくよう工夫しました。

企画2「撮っておきたい岡山」では写真にマスキングテープを貼り、縁取りの絵柄は岡山の名産品を意識したものにししました。キャプションによる解説は最小限にして写真を見ていただくことに注力しました。

壁面パネルは目線の高さやパネル同士の距離を考慮し、メジャーで測りながら配置しました。整った配置となるよう、皆で確認し納得いくものとなるように努力しました。(文学部 歴史学・考古学分野 阿部誠悟)

## 企画1「とっておきたい とっておきのチケット」

企画1では「とっておきたい とっておきのチケット」というテーマで展示を行いました。「おなじ?チケット」では、同じ施設ですがデザインの異なるチケットを複数枚展示し、その違いを楽しんでいただけるようにしました。「チケットのおなかとせなか」では同一のチケットの表面と裏面を並べ、見比べていただける展示を目指しました。機能性に特化したコンビニチケットと、それ以外のチケットを比べる展示「チケットいろいろ」では、用途によって異なるチケットのデザインに注目した展示となっています。本展示によって、身近なものでありながら普段ほとんど注目されることのない「チケット」の面白さに改めて気づいて下さると幸いです。

(文学部 日本語・日本文学分野 名村麻由子)



## 企画2「撮っておきたい岡山」



企画2では「撮っておきたい岡山」というテーマで展示を行いました。岡山県出身の方でもそうでない方でもわかるように、展示ケースの中心に岡山県の地図を載せ、県内の名所のポストカードや写真、チケットを展示しました。また、岡山県内の名所がどういったところにあるのかという説明をもとに展示しました。工夫した点は、分かりやすいように、ポストカード・チケット・写真を地図上で色分けしたことです。また、キャプションの周りをマスキングテープで囲んで注目して見てもらえるようにしました。本展示で、名所の良さがより伝わり、是非実際に足を運んでいただければ幸いです。(文学部 歴史学・考古学分野 若山聡良)

## ワークショップ「スクラップブックを作ろう！」

展示イベントとして、「スクラップブックを作ろう!」というコーナーを設置しました。このコーナーの内容は、来場者の方に思い出のあるコレクションをカードに書いてもらい、それをスクラップブック風のボードに貼ってもらうというものです。数種類のカードとマスキングテープを用意して、好きなものを選んでもらえるように工夫しました。

たくさんさんのコレクションが集まり、賑やかなスクラップブックを完成させることができました。ご参加いただいた皆様、ありがとうございます。

(文学部 歴史学・考古学分野 松尾姫奈)



## アンケート「絵手紙を投函」

当企画展では、来場者の方を対象にアンケートにご協力いただき、55人の方から回答を得ることができました。そのうち50人が「博物館展示論」受講者でした。

アンケートは企画2「撮っておきたい岡山」にちなんだ岡山県の名所が印刷された絵手紙風のアンケート用紙をポストに投函していただく形をとりました。

各展示における資料数・説明・展示内容について満足していただけただかどうか、回答してもらいました。結果、特に展示内容について「やや満足」「満足」の割合が各展示ともに70%を越えています(図1、図2)。また、自由記述から「マスキングテープがはなやかでよかった」「細かいところまで工夫があって楽しい展示だった」などの感想もみられました。以上から各展示の工夫が効果的に作用していたと思います。

さらにワークショップにおいても「やや満足」「満足」の割合が過半数を超えています(図3)。自由記述からは「スクラップブックを作るというアイデアが面白い」などの好意的な意見もみられました。

一方、「説明に誤字があった」「キャプションが倒れていた」「文字が小さくて見えづらいところがあった」というような意見もみられました。パネルやキャプションについて展示前に再度見直したり、展示後にも気を配ったりする必要があると考えられます。また、来場者のほとんどが授業をきっかけにしているため、広報活動についても見直しの余地があると考えられます。

アンケートにご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

(文学部 地理学・社会学・文化人類学・社会文化学分野 稲毛沙恵)

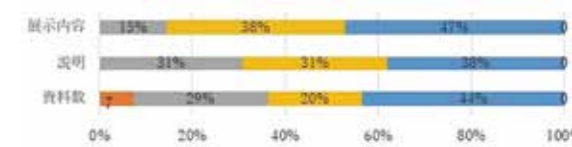


図1 「とっておきたい とっておきのチケット」満足度

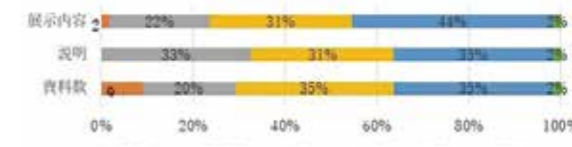


図2 「撮っておきたい岡山」満足度

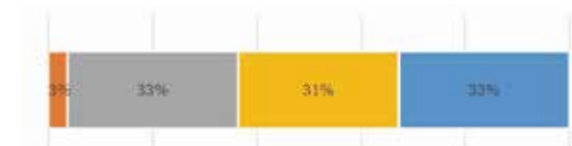


図3 ワークショップ 満足度



アンケート回収ポスト



企画2 解説パネル



企画1 ケース内



展示全体図



ワークショップ 実際のカード